

平成 26 年度 山辺町家庭教育充実事業「子育て講演会」

演題 「未来ある子ども達のために～たくましい心と身体～」

講師 和田英光氏（「おやし日本」理事）

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」(ロバート・フルガン著)より

一生涯の基本となるのが幼稚園教育（幼児教育）

躾は「つ」がつく内に（一つ、二つ……九つまで）

食育 命を頂くおかげで自分たちは生きられる。感謝の気持ち

経験が大事 やってみて覚える。頭から「ダメ」と言わない

状況を見て感じる、気づく

社会のルール、人の気持ち

### 躾は家庭で親が教えるもの

あいさつ、オムツをとる、箸の持ち方を教える...等々

親が子どもにお願いするのはおかしい。親子は友だち関係ではない

ex. ・病院で...「お洋服脱いでくれる？」 「脱ぎなさい」でいい

親が子どもに聞くのもおかしい。

お父さん（お母さん）は自分で決められないんだな。頼りないな

ex. ・「～に行きたい？」「～したい？」

家の方針、親が伝えるべきものをしっかり示すべき

### 何と言っても「心」を育てるのは「愛情」

無償の愛、とにかく抱きしめること

子どもが、自分を必要とされている、愛されていると感じること

親の見栄に、子どもはついていけない

子どもは冷静に見ている

絵本の読み聞かせをしましょう。子どもの心に深く残る

\*デジタル、パソコンで心は伝わらない

アイコンタクト、ハート to ハートが大事。アナログにはハートがある

\*スマホ、ウェブの怖さ

・無視されたことからイジメ、そして殺人や自殺に至ってしまった事件

・9歳以下の子どもが親に無断で決済し何万、何十万請求されるケースが続出

・子どもを大人しくさせるために（親が自分の時間が欲しいために）スマホなどを

与えゲームをさせておく...育たない

## 命の大切さ

生みの苦しみ...お母さんも苦しいが、赤ちゃんもお腹の中で必死に頑張っている  
年間何人もの赤ちゃんが人としての命を頂く前に亡くなっている

“生まれてきてくれただけで100点満点!!”

『生んでくれてありがとう』——『生まれて来てくれてありがとう』

第二次世界大戦で失った沢山の命...「死にたくはなかった」

・最年少17歳の特攻隊 —— 死ぬ前に思う母の愛（多くの手記より）

そのおかげで今の日本、現在の私たちがいることを忘れてはならない

「富国有徳への道」

・私たちの祖先は勤勉、正直、親切、謙虚、素直、感謝といった徳目を規範に幾世期も暮らしてきた人たちであった。

フランシスコ・ザビエル、イザベラ・バード、ポール・クローデルなど多くの外国人が  
日本を訪れた時にその素晴らしさを記録に残している

・さて昨今は.....？

一人ひとりがこの美質を取り戻し発揮した時日本は真に豊かな国となる

子どもにとって抱きしめられる心地良さや安心感は何物にも代え難いものです。  
その積み重ねが無意識の支えとなり、将来道を踏み外しそうになった時や行き詰った時  
守ってくれる力ともなるように思います。「**まるごと抱きしめて下さい**」